

あいち農産物生産流通レポート

平成19年2月号

情報サロン		
・あいち食育いきいきプラン～愛知県食育推進計画～ができました！		
	(食育推進課) -----	1
地域トピックス		
・高浜市初の農産物直売所がオープンしました！		
	(西三河農林水産事務所) -----	2
東日本情報		
・東京都中央卸売市場におけるいちごの入荷状況		
	(東京事務所) -----	3
西日本情報		
・農産物輸出を巡る動きについて		
	(園芸農産課) -----	5
フラワーページ		
・「フラワードーム2007(あいち花フェスタ・名古屋国際蘭展)の開催について」		
	(園芸農産課) -----	7
青果		
・愛知産青果物の動向(名古屋・東京市場)	-----	8
・名古屋・東京市場における青果物の2月の見通し	-----	9
花き		
・切花・鉢花の2月の見通し(県内市場)	-----	21
輸出入		
・主要農産物の輸出入実績(2006年11月)	-----	25
関連指数	-----	26

本書の内容についての問い合わせ先

愛知県東京事務所総務課物産情報グループ

(03)-5492-5400

愛知県農林水産部食育推進課

(052)-954-6417

**あいち食育いきいきプラン～愛知県食育推進計画～ができました！**

平成18年3月に条例により設置した「愛知県食育推進会議（会長：愛知県知事）」では、食育基本法に定められた県の食育推進計画の作成を進めてきました。平成18年11月20日（月）に開催した第3回会議において、食育を総合的かつ計画的に推進するための「あいち食育いきいきプラン～愛知県食育推進計画～」(以下「プラン」という。)を決定しました。

今後、このプランに基づき愛知県食育推進会議が中心になって、県民の方々を始め市町村や様々な団体、企業などにも取り組みを促しながら、食育を継続的な県民運動として推進していきます

なお、プランの概要等については次のとおりです。

1 プランの位置付け

- (1) プランは家庭、学校等、職場、地域のあらゆる機会や場所において、県民が主体的に食育に取り組むための指針とします。
- (2) プランは、関係者が連携・協力し、本県における食育に関する取り組みを総合的かつ計画的に推進するための基本となるものです。

2 プランの期間

平成19年度から平成22年度まで

3 食育の目指す方向

- ・ 食を通じて健康な体をつくること
- ・ 食を通じて豊かな心を育むこと
- ・ 食を通じて環境に優しい暮らしを築くこと

**4 プランの特徴**

- ・ 環境先進県を目指す愛知県として、食育の面でも環境に視点を置いた方向を打ち出すなど、本県の特色を背景にした方向付けを行っています。
- ・ 「肥満者の割合」、「健康な歯を持つ人の割合」、「むだや廃棄の少ない食事づくりに積極的な人の割合」など、国にはない本県独自の数値目標を設定しました。
- ・ 「学校給食で地場産物を使用する割合（35%）」、「食育推進計画を作成・実施している市町村の割合（80%）」など国に比べて高い目標を設定しました。
- ・ 県民が食育に主体的に取り組む目安として、世代別の取り組みを明らかにしました。
- ・ 県や関係団体等が食育を働きかける分野として、国が示した「家庭」、「学校等」、「地域」に加えて「職場」での取り組みを推進することとしました。

5 その他

プランの全文は県中央県民生活プラザ及び県内7ヶ所の県民生活プラザにおいてご覧いただくことができるほか、プランの概要版を同所で配付しています。

また、プランの全文及び概要版は食育推進課 Web ページ

(<http://www.pref.aichi.jp/shokuiku/syokuiku/plan/plan.html>) でご覧いただけます。

高浜市初の農産物直売所がオープンしました！

農産物直売所「JA あいち中央 産直センター高浜」が、平成 18 年 12 月 28 日、県道 304 号線沿いの本郷町（JA 高取支店敷地内）に開店しました。JA あいち中央としては 11 店目、高浜市内では初の直売所となります。

典型的な都市型農業地域である高浜市は、特産の鶏卵を除き、共同出荷される農産物は品目・数量ともに少なく、副業的、自給的農家の割合が高くなっています。一方、新鮮で、安全・安心な農畜産物を求める市民の要望は強いものの、JA 高取支店で週 1 回開催されてきた「朝市」の他には、市民が地元で採れた農産物を直接購入できる機会はありませんでした。

このため、都市農業の振興と地産地消の推進拠点として、JA あいち中央が県と市の補助金を活用し、高取支店敷地内に常設直売所を新設しました。

産直センター高浜の発足に伴い「高浜産直部会」が設立されました。従来の朝市会員に加え、自家消費主体であった農家や市外の直売所へ出荷していた農家も新たに部会員となったことから、市内で生産された新鮮な農産物や特産の鶏卵を市民へ供給できる体制が整備されました。

今後、農協は部会に対して年間を通じて質・量ともに品揃えをより充実させるとともに、今後増加する定年退職者を新たに部会員として取り込んでいく働きかけや指導を行っていくこととしています。



施設外観



店内の状況

東京都中央卸売市場におけるいちごの入荷状況

京浜市場において長らく続いた「女峰」、「とよのか」の2大品種時代が終わり、「とちおとめ」が「女峰」から切り替わり、現在は東京都中央卸売市場の入荷量の5割を占めている。一方「とよのか」は5年ほど前から入荷量が減少し、「あまおう」、「さがほのか」など各県育成品種の入荷が増加している。

最近では、平成17年産より「ひのしずく」、「やよいひめ」、平成18年産から「ゆめのか」、「さぬき姫」が初入荷している。

平成18年産の入荷量の増減については、「紅ほっぺ」、「ひのしずく」が著しく増加しており、ほぼ福岡県内で品種統一のできた「あまおう」については入荷量はほぼ横ばいであるが、他県にも許諾を出されている「さがほのか」は増加傾向にある(表1参照)。

単価は、主力品種「とちおとめ」に比べ、「さぬき姫」、「あまおう」、「ひのしずく」、「紅ほっぺ」の順に高くなっている。京浜市場に上物を集中する産地もあると考えられるが、大きく、色つやの良い品種が好まれる傾向にある。

今年産主要品種の入荷シェアは今のところ大きな変化はないが、「やよいひめ」、「さぬき姫」は入荷量は少ないものの大幅に増加している(表1参照)。

表1 東京青果におけるいちご主要品種の入荷量とシェア

(単位：t、%)

項目	とちおとめ	うち愛知産	ゆめのか	あまおう	さがほのか	紅ほっぺ	ひのしずく	やよいひめ	さぬき姫	その他	合計
16年産	5,458	928	0	2,198	588	0	0	0	0	3,087	11,331
17年産	6,445	937	0	2,919	836	97	17	56	0	1,621	11,991
18年産	6,477	758	19	2,931	1,125	461	94	128	1	764	12,000
H18シェア	54.0	6.3	0.2	24.4	9.4	3.8	0.8	1.1	0.0	6.4	100.0
19年産	1,770	209	9	740	260	113	36	22	2	79	3,031
H19シェア	58.4	6.9	0.3	24.4	8.6	3.7	1.2	0.7	0.1	2.6	100.0

(注) 各年産11月から6月まで、ただし19年産は11月から1月中旬まで

表2 いちご品種の育成年次と許諾状況(2005年~2006年4月)

品種名	とちおとめ	あまおう	さがほのか	紅ほっぺ	やよいひめ	ひのしずく	ゆめのか	尾瀬はるか	さぬき姫
登録年次等	1996年	2005年	2001年	2002年	2005年	2006年	2005申請	2005年	2005年申請
育成者	栃木県	福岡県	佐賀県	静岡県	群馬県	熊本県	愛知県	群馬県	香川県
育成県以外の出荷	愛知,茨城等	無	宮崎,熊本等	無	無	無	無	無	無

また、今年産の旬別の品種単価をみると、どの品種も12月中旬前後で「とちおとめ」に対して安くなった。この要因としては、この時期、業務需要のため「とちおとめ」の引き合いが強かったためと考えられる(表3,表4参照)。

1月12日東京青果で果実売り場で行われた食育イベントには、栃木、福岡、佐賀など8県6品種が試食でき、2品種が展示された。この他、ドライフルーツ、いちご大福などの加工品も出品された。愛知からも「ゆめのか」を出展し、試食では仲卸、小売、県連担当者から糖酸のバランスが良く美味しいと言う評価が多かった。

表3 東京青果におけるいちご主要品種の平均単価 (単位:円/kg)

項目	とちおとめ 全体	愛知産 とちおとめ	ゆめのか	あまおう	さがほのか	紅ほっぺ	ひのしずく	やよいひめ	さぬき姫
16年産	1,071	1,020	-	1,154	1,110	672	-	-	-
17年産	1,028	1,042	-	1,251	1,126	1,072	1,230	989	-
18年産	1,071	1,075	987	1,218	1,018	1,151	1,203	1,033	1,254
19年産	1,365	1,340	1,281	1,554	1,374	1,443	1,408	1,279	1,434

(注) 各年産11月から6月まで、ただし19年産は11月から1月中旬まで

表4 平成19年産東京青果におけるいちご主要品種の旬別平均単価 (単位:円/kg)

項目	とちおとめ 全体	愛知産 とちおとめ	ゆめのか	あまおう	さがほのか	紅ほっぺ	ひのしずく	やよいひめ	さぬき姫
11月上旬	1,817	1,816	1,833	0	0	0	0	0	0
11月中旬	1,698	1,760	1,585	2,160	1,950	1,902	0	0	1,758
11月下旬	1,462	1,555	1,338	1,610	1,433	1,507	1,688	1,265	1,514
12月上旬	1,136	1,067	1,090	1,412	1,199	1,288	1,291	1,087	1,396
12月中旬	1,528	1,366	1,438	1,406	1,446	1,319	1,293	1,365	1,587
12月下旬	1,723	1,564	1,549	1,785	1,729	1,698	1,644	1,642	1,401
1月上旬	1,111	1,003	1,128	1,490	1,262	1,424	1,362	1,187	1,229
1月中旬	1,048	1,067	1,226	1,612	1,190	1,318	1,299	1,137	1,319



話題の新品种

左：さぬき姫（香川県） 右：やよいひめ（群馬県）
（東京青果食育イベントにて）

愛知県県育成品種「ゆめのか」
（東京青果食育イベントにて）

農産物輸出を巡る動きについて

国は「攻めの農業」の一環として農産物輸出を位置づけ、今後5年間で農林水産物等の輸出額を3千億円（平成16年実績）から6千億円に倍増する目標を掲げています。

この目標を達成するため、「農林水産物等輸出促進全国協議会」（構成：農林水産団体等関係団体や関係省庁及び47都道府県など）を平成17年4月に設立し、民と官を挙げて取組を推進するとともに、輸出促進のための予算措置を講じています。

さらに、安部首相は就任直後に「平成25年までに1兆円規模を目指す」との所信を表明し、この取組を加速させていくこととしています。

県内産地においても、愛知万博の開催や中部国際空港の開港を契機とした国際化の進展を背景に、海外にも目を向けた農産物出荷を行う機会と捉え、さまざまな取組を始めていますので、他県の取組を含めて紹介します。

1 県内産地の取組

以前から県内業者はお茶や洋らんなどを輸出していましたが、今回は最近取組を始めた産地について紹介します。

(1) 美浜町

本県が今年度実施している「あいちの農産物輸出促進事業」を活用して作成した海外PR用のパンフレット（右図）を中部国際空港にあるJAあいち知多の直営店「季果旬菜の店 あぐりす」において「みはまっこ」の販売とともに配布した。

(2) 豊橋市・田原市

JA豊橋、JA愛知みなみ及び関連企業などで構成する「IT農業研究会」は、平成16年11月に「東三河農産品輸出プロジェクト」を設置し、東アジア諸国を対象に農産物輸出について検討を重ねてきた結果、平成17年11月に香港へ「次郎柿」のテスト輸出を行った。

さらに、豊橋市、田原市とJA豊橋及びJA愛知みなみは、管内農産物の輸出を促進し、農業の活性化を図ることを目的として、平成18年5月に「豊橋・田原農産物輸出研究会」を設立し、先述の輸出プロジェクトを引き継ぐとともに、平成18年10月から11月にかけてタイへ「次郎柿」のテスト輸出を行った。



「みはまっこ」海外PR用パンフレット
(英文、中国語、日本語)

2 他県の取組（本県が実施した平成18年度先進地調査による）

（1）鳥取県

二十世紀梨を昭和8年から輸出している。現在は、全農鳥取県本部が主体となり、台湾の他、アメリカ、オーストラリア、カナダなどに輸出しており、今後、中国への本格輸出も考えている。台湾向けには、氷温冷蔵施設を用いて、8月に収穫した梨を旧正月（2月）に出荷している。国内では安価の大玉果が、台湾では高級贈答品として逆に高値で取引されており、今後も販売量の増加が期待される。

また、産地と現地との情報伝達を迅速化するため、台湾にノウハウを持つ商社のOBを雇い、ホットラインを結んでいる。

（2）福岡県

いちごの「あまおう」を主体に梨、巨峰などを平成4年から香港へ、平成15年から台湾、中国へ輸出しており、「あまおう」の輸出額はこの3年間で3倍となった。県は、平成17年度に「福岡の食輸出促進センター」を設置して組織体制の強化を図っている。

また、福岡県産の統一ブランドマーク（右図）を貼付して輸出しており、香港などで福岡ブランドが浸透しつつある。



福岡県の統一ブランドマーク

3 愛知県の取組

（1）あいちの農産物輸出推進研究会について

本県は、平成18年3月、輸出実績のある企業、輸出に取り組む意欲のある団体や有識者、県機関で構成する「あいちの農産物輸出推進研究会」を設置し、検討を重ねてきた。その中で明らかになった課題や18年度の取組結果等を踏まえ、新たに輸出に取り組む産地のために参考となる資料として、農産物輸出の基本的な進め方を取りまとめ、関係機関に配布する予定である。

（2）県内農協に対する輸出意向調査

平成18年5月に県内の農協等25団体に輸出の意向調査を行ったところ、

- 実施中・・・1か所
- 意向有り・・・3か所
- 意向無し・・・21か所

との回答を得た。

輸出の「意向無し」と回答のあった21団体について、その理由を尋ねたところ、「生産量が少ない」が最も多く、次に、「国内販売を優先」、「輸出コストに見合う販売価格が期待できない」などであった。

（3）江蘇省蘇州市での本県産梨のPR

本県と友好提携を結んでいる中国江蘇省へ、あいち経済連と県職員が出向き、江蘇省職員、現地の卸売市場・スーパーの担当者などと座談会や商談会を行った。座談会等の際に持参した本県産の梨（歎月、新高）の試食会を行ったところ、食味に対する評価は非常によかったものの、価格面の課題が残った。



蘇州市で配布したPR用パンフ

「フラワードーム2007（あいち花フェスタ・名古屋国際蘭展） の開催について」

日本最大級のフラワーイベント

このイベントは、全国一の産出額を誇る愛知の花々を装飾展示し、花の生産者と消費者の交流を通じ、花き産業と花きに関する文化の振興を図ることを目的に開催されます。

本年度で8回目を迎えるこのイベントは、花への関心の高さから毎年十数万人の来場により盛況に開催されています。今回も趣向を凝らして来場の方々に満足していただけるよう鋭意準備が進められており、多数の来場が期待されます。

フラワードーム2007の見どころ

ドームの壮大な空間を利用したディスプレイコンテスト

品質の高い愛知の花々と国内外のランによるフラワーコンテスト

ドーム中央にそびえるランや愛知の花をふんだんに使った大型装飾

「ランの女王」とも呼ばれるカトレアの多彩な品種を集めた特別展示

ハイビスカスなど、色とりどりの「ハワイ」の花の紹介

その他多数の催し

約80店もの専門店が並ぶ販売コーナーでは、生花・苗・園芸用品などがお値打ちにお買い求めいただけます。

さらに、ステージイベントとして一流講師を迎えての園芸教室、世界的フラワーアーティストによるフラワーデモンストレーション、フラメンコやフラダンスのショーなどのプログラムが用意されています。

また、日本の伝統美「いけばな」の粋を極めた作品の創作展示なども行われます。

会期 平成19年3月15日(木)
～3月21日(水・祝)

場所 ナゴヤドーム
(地下鉄・ゆとりーとライン「ナゴヤドーム前
矢田」駅、JR・名鉄「大曽根」駅下車)

入場料

前売券 大人 1,500円、中・高生 1,000円
当日券 大人 1,800円、中・高生 1,200円
ナイトチケット 900円(16日(金)、17日(土)
の当日券のみ)

小学生以下は無料



前回のディスプレイコンテスト作品

ナイトチケットは午後5時からご利用いただけます。

愛知産青果物の動向

青果物の見通し」及び「花きの見通し」ページにおいて使用する『変動の幅を表す用語』につきましては、下記の基準で記載しております。

わずか : ± 2 % 台以内
 や や : ± 3 ~ 5 % 台
 かなり : ± 6 ~ 15 % 台
 大 幅 : ± 1 6 % 以上

名古屋中央卸売市場(品目: さやえんどう)

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	うち愛知産	
18年実績	87	17 (19%)	734	973 和歌山 (36%) 中国 (35%)
19年見通し	80	-	750	-
入荷量及び卸売価格の概要と見通し			卸売市場から産地への要望・提言等	
<p>定植後の10月以降、気温の高い日が続いたが、曇天も多かったため、生育は当初の予想ほど良好ではない。しかし、昨年は台風等で入荷が不安定となったが、今年は台風等の影響はなく入荷は安定する。1月の入荷量は前年をかなり下回り、価格は前年をわずかに上回る見込み。</p>			<p>和歌山、熊本が競合産地であるが、各産地とも作付面積は前年並みで、本県同様、生育は順調である。 近年、競合産地は合同で試食販売を行ったり、調味料メーカーの商品とともに食材を紹介するなど積極的なPRを行っている。本県も危機感を持って販売を促進して欲しい。</p>	

東京都中央卸売市場(品目: ふき)

	入 荷 量 (t)	卸 売 価 格 (円/kg)		前年の主な他産地 (上位3産地)
		うち愛知産	うち愛知産	
18年実績	150	146 (97%)	347	342 大阪 (2%) 徳島 (1%)
19年見通し	150	-	350	-
概 要 と 見 通 し			卸売市場から産地への要望・提言等	
<p>本県産の入荷が大部分を占める。2月は抑制ものから促成ものへと入荷が切り替わる。 本県産の抑制ものについては10月から入荷が始まっているが、初期に品質低下が散見されたが、現在は問題はない。 入荷量は前年並みで、価格も前年並みの見込み。</p>			<p>ふきは春を感じさせる野菜として、これからの時期には欠かせない商材である。 下ごしらえに手間がかかるため、調理済みのものしか購入しない消費者もいる。試食宣伝と同時に調理方法の紹介を行うなどして、家庭での消費を拡大していくことが重要である。 また、出荷にあたっては切り口の処理に注意するなど品質保持に努めて欲しい。</p>	

関 連 指 数

項目 年月		消費者物価指数				
		総合	生鮮野菜	生鮮果物	肉類	魚介類
		全 国 平成17年 = 100 愛知県 平成17年 = 100				
全 国	18年 7月	100.1	100.8	101.3	100.7	101.4
	8月	100.8	119.1	111.0	101.1	104.1
	9月	100.8	112.6	111.0	101.3	103.4
	10月	100.8	106.1	110.2	101.4	102.5
	11月	100.1	89.4	105.5	101.7	102.4
愛 知 県	18年 7月	100.2	98.9	105.5	101.0	103.2
	8月	100.8	119.4	109.9	100.7	105.6
	9月	101.0	111.3	108.9	98.6	103.8
	10月	100.9	107.1	101.5	101.6	103.6
	11月	100.3	89.8	102.4	99.4	102.3

項目 年月		農業物価指数 (平成12年 = 100)				
		農産物総合	米	野菜	果実	畜産物
17年平均		99.7	91.9	104.7	90.7	109.3
18年	7月	93.7	87.7	103.4	94.5	110.3
	8月	102.8	92.0	109.1	105.6	107.6
	9月	104.9	91.2	119.2	93.3	109.0
	10月	100.0	89.0	111.0	93.9	108.2
	11月	95.1	90.1	76.5	119.4	109.6

資料 農林水産省大臣官房統計部「農業物価指数」

資料 全 国・総務省統計局「消費者物価指数月報」
愛知県・愛知県県民生活部「名古屋市消費者物価指数」

名 古 屋 市 小 売 価 格 (円)													
品目 単位 年月	うるち	キ	は	ね	レ	ば	だ	に	た	き	ト	生	り
	米 (単一品種、 「コシカ 」以外)	ャ ベ ツ	く さ い	ね ぎ	タ ス	れ い し よ	い こ ん	ん じ ん	ま ね ぎ	ゅ う り	マ ト	し い た け	ん(ご ふ じ)
	5 kg	1 kg										100g	1kg
17年平均	2,293	170	165	586	397	304	151	340	217	522	636	178	521
18年 7月	2,255	151	181	563	280	291	160	374	203	437	523	193	562
8月	2,239	197	291	665	497	291	229	484	214	564	619	198	-
9月	2,247	171	228	655	396	303	178	385	219	540	677	195	-
10月	2,290	175	174	676	368	279	146	367	220	487	758	215	-
11月	2,265	106	107	571	281	276	103	306	210	395	639	208	-
品目 単位 年月	み	グ	オ	い	バ	キ	緑(せ	カ	き	バ	豚(口	牛(口	ま
	か ん	レフ ル プ ツ	レ ン ジ	ち ご	ナ ナ	ウフ イル ツ	茶ん 茶)	 ネシ ヨ ン	く	ラ	肉 ス)	肉 ス)	ぐる
	1 kg						100g	1 本			1kg		
17年平均	548	291	362	156	240	723	618	155	171	306	234	792	480
18年 7月	-	316	406	-	243	699	599	166	157	295	234	827	498
8月	-	335	409	-	253	724	599	156	175	299	238	819	497
9月	1,084	310	403	-	255	755	599	154	181	301	229	736	522
10月	483	306	416	-	265	684	603	149	157	295	230	813	497
11月	487	369	423	-	242	694	603	146	159	304	238	809	496

資料 総務省統計局「小売物価統計調査報告」



あいち農産物生産流通レポート 404
平成19年2月発行
農林水産部食育推進課
〒460-8501
名古屋市中区三の丸三丁目1番2号
電話 (052) 954-6417